（別記）

令和８年度釜石地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

１　地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域は典型的な中山間地域であり、狭小な農地（水田）が多く、農地集積が難しい地域である。これにより、農家の標準的な農業形態は、土地利用型作物ではなく「水稲＋園芸品目」の複合経営である。

このような土地利用条件の中における作物作付の現状は、沿岸の温暖な気候を生かした園芸品目（地域振興作物）の作付が行われているものの、少量多品目の生産体系である。このことから、「ピーマン」等の系統出荷を推進しながら産地形成を図るだけでなく、地域内の産直・スーパーのインショップへの野菜・花きの出荷による地産地消の取り組みも推進していく。また、地域特産品や、地元食品メーカー等の実需者からの要望のある品目として「トマト」、「ウメ」、「カキ」の生産拡大を図り、小規模な農地（水田）でも収益性の高い地域振興作物の定着と安定的な販路の確保による農家所得の確保を目指していく。また、近年の物価高騰の背景の中で、市場によらない出荷形態（産地直売所や実需者との直接取引）であるものの、経営の安定化のため生産拡大等の産地形成とあわせて農業者の価格転嫁についても地域として誘導していく。

今後の課題として、農家の高齢化による不作付地の増加、経営拡大を目指す中心的担い手が少ない等の理由から、高収益作物の作付転換だけでなく省力作物等への作付転換による農地維持も必要となっていることから、「かぼちゃ」「キクイモ」、「ワラビ」「ふき」などの作物も地域振興作物として位置づけ、作付誘導を図っていく。

２　高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

主食用米の需要が年々減少する中で需要に応じた米の生産・販売を進めるとともに、地域内の畜産農家と結びついた飼料用作物の作付の維持、沿岸地域の温暖な気候を生かした園芸品目（地域振興作物）の作付拡大を推進する。地域特産品の「かき（甲子柿）」、農協で生産拡大を目指す「ピーマン」は、関係者と地域の生産目標を設定し生産拡大を図っていく。地元食品メーカー等からの要望のある「そば」、「うめ」は、実需者からの需要に応じた生産拡大を図っていくなど、当地域ならではの品目に重点を置き、収益力の向上を図っていく。

３　畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

飯米農家も多いことから水田としての維持を図ることを基本としつつ、米の需要の落ち込みや高齢化による離農により、遊休化した水田が増加傾向にある。

このことから、農地中間管理事業等を活用して担い手農家への農地集積を推進していくとともに、引き受け手がない水田については、鳥獣被害の防止や景観形成に配慮しつつ、水田活用直接支払交付金による収益性の高い水田の有効活用と日本型直接支払による条件不利農地の維持管理という視点での取組をさらに進める。

また、灌漑設備等の老朽化により、水稲の作付が困難な水田や、転作作物の作付において生産性を高めていく必要が生じた場合は、周辺の水田に影響がないかを確認しながら、段階的に畑地化を支援していく。

４　作物ごとの取組方針等

（１）主食用米

作付については、飯米農家も多いことを勘案するとともに、需要に見合った作付を行うことで、安定した生産を目指す。

（２）備蓄米

契約数量に応じた生産に取組む。

（３）非主食用米

ア　飼料用米

取り組みの予定なし。

イ　米粉用米

取り組みの予定なし。

ウ　新市場開拓用米

取り組みの予定なし。

エ　WCS 用稲

取り組みの予定なし。

オ　加工用米

取り組みの予定なし。

（４）麦、大豆、飼料作物

適切な土壌管理や機械の共同利用によるコスト低減により生産量の向上や作付拡大を図る。麦、大豆については、産直等での出荷による現状維持とし、飼料作物については、畜産農家とのマッチングを図り供給協定書に基づいた作付を推進する。

（５）そば、なたね

取組の予定なし。

（６）地力増進作物

取り組みの予定なし。

（７）高収益作物

「地域振興作物（ピーマン、ほうれんそう、トマト）」については、協議会として産地化していく計画のある作物であり、農協出荷や産直においても主力品目として取扱が増加してきている品目であるため、今後も作付を推進すべき野菜品目として位置付け、農家所得の向上を図るために産地交付金を活用し作付拡大を推進する。

また、「振興作物（野菜、花き・花木「別紙のとおり」）についても産地交付金を活用し、作付推進を図る。

別紙

５ 作物ごとの作付予定面積等

（単位：ha）

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和８年度の作付目標面積等	
		うち二毛作		うち二毛作		うち二毛作
主食用米	36.1		37.0		37.0	
備蓄米	0		0		0	
飼料用米	0		0		0	
米粉用米	0		0		0	
新市場開拓用米	0		0		0	
WCS用稲	0		0		0	
加工用米	0		0		0	
麦	0		0		0	
大豆	0.6		0.6		0.6	
飼料作物	0.9		0.9		0.9	
・子実用とうもろこし	0		0		0	
そば	0		0		0	
なたね	0		0		0	
地力増進作物	0		0		0	
高収益作物	0.92		0.96		0.96	
・野菜	0.38		0.51		0.51	
・花き・花木	0.07		0.09		0.09	
・果樹	0.47		0.36		0.36	
・その他の高収益作物	0		0		0	
その他	0		0		0	
・景観形成作物	0		0		0	
畑地化	0		0		0	

６ 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	ピーマン	地域振興作物助成	作付面積	（令和７年度）0ha	（令和８年度）0.02ha
	ほうれんそう			（令和７年度）0.03ha	（令和８年度）0.03ha
	トマト（ミニトマト含む）			（令和７年度）0ha	（令和８年度）0.1ha
	うめ			（令和７年度）0.33ha	（令和８年度）0.24ha
	かき			（令和７年度）0.12ha	（令和８年度）0.12ha
2	きゅうり	振興作物助成（野菜、花き・花木）	作付面積	（令和７年度）0.13ha	（令和８年度） 0.14ha
	大根			（令和７年度）0ha	（令和８年度）0.01ha
	はくさい			（令和７年度）0ha	（令和８年度）0.01ha
	かぼちゃ			（令和７年度）0.08ha	（令和８年度）0.09ha
	キクイモ			（令和７年度）0.07ha	（令和８年度）0.07ha
	わらび			（令和７年度）0ha	（令和８年度）0.01ha
	ふき			（令和７年度）0.02ha	（令和８年度）0.03ha
	小ぎく			（令和７年度）0.03ha	（令和８年度）0.02ha
	輪ぎく			（令和７年度）0ha	（令和８年度）0.01ha
	トルコギキョウ			（令和７年度）0.05ha	（令和８年度）0.06ha
	アルストロメリア			（令和７年度）0ha	（令和８年度）0ha

※　必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。
※　目標期間は３年以内としてください。

7　産地交付金の活用方法の概要

都道府県名：岩手県

協議会名：釜石地域農業再生協議会

整理番号	使途 ※1	作期等 ※2	単価 （円/10a）	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	地域振興作物助成	1	30,000	別紙のとおり	作付面積に応じて支援
2	振興作物助成（野菜、花き・花木）	1	20,000	別紙のとおり	作付面積に応じて支援

※1　二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇（二毛作）」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇（耕畜連携）」と記入してください。
　　ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。
　　なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇（耕畜連携・二毛作）」と記入してください。
※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。
※3　産地交付金の活用方法の明細（個票）の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。
※4　産地交付金の活用方法の明細（個票）の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

別紙

助成対象作物一覧

【釜石地域農業再生協議会】

○ 地域振興作物

ピーマン	ほうれんそう	トマト（ミニトマトを含む、 加工用トマトを除く）	ウメ※	カキ※

○ 振興作物

野菜	花き・花木
きゅうり 大根 はくさい かぼちゃ キクイモ わらび※ ふき※	小ぎく 輪ぎく トルコギキョウ アルストロメリア

※印は収穫までに複数年かかる作物